

<p>第5期横浜市子ども・子育て会議 第12回保育・教育部会  第33期横浜市児童福祉審議会 第13回保育部会 合同部会 公開議事会議録</p>		
日 時	令和4年10月5日(水) 18時00分～20時20分	
開催場所	市役所18階 みなと6・7会議室	
出席者	石井部会長、山瀬副部会長、倉根委員、清水委員、天明委員、大庭委員、森委員、尾木委員、大澤委員、石山委員	
欠席者	なし	
開催形態	公開(一部非公開)	
議 題	報告<公開案件> 【子ども・子育て会議】 (1) 保留児童対策タスクフォースによる分析結果について 議事<非公開案件> 【児童福祉審議会】 (2) 小規模保育事業の認可及び改修費補助金交付先法人の審査について (3) 認可保育所の法人変更に伴う認可について	
議 事	石井部会長  事務局 石井部会長  石山委員  事務局  石山委員  事務局  石山委員 尾木委員	それではまず、保留児童対策タスクフォースによる分析結果について、事務局から説明をお願いします。 「保留児童対策タスクフォースによる分析結果について」説明。 ありがとうございます。それでは、ただいまの事務局の説明について質問や意見がございましたらお願いいたします。 御説明ありがとうございます。記者発表資料3の表の中にある項目に、フリーランスで働く方というのは入っているのでしょうか。 いわゆるフリーランス、例えば在宅勤務の方も基本的には入っていますので、そういう意味では入っているという形になります。 フリーランスの方がなかなか入所できないということが課題になっているかなと思ったのですが、この中に入っているということですね。ありがとうございます。 そうですね。働いている時間によって判断していますので、働いている時間が少なければ場合によっては短時間就労とかの分類に入る方もいらっしゃるかと思います。 ありがとうございます。 2点ありますけれども、まずポイント②の「一時保育等の拡充」というところで、一時預かりが充実することにより、ここに含まれている方たちが何とかなるのではないかというのはもちろんあると思うのですが、そのことで、在宅で子育てをしている方たちの利用範囲が狭まらないように、そこはぜひ配慮していただきたいと思います。 それともう一つ、ポイント④の小規模保育等の情報を発信するとい

		<p>うところですが、やはり多くの方が心配するのは、2歳まではそこに通えるけれども、その後はどうなるのかということだと思っておりますが、そこが全然見えてこないですね。実際に小規模や家庭的保育などを利用していただけた方が、その後保育所や幼稚園にどのくらい入れたのか、本当に入れているのかどうかということが、例えばホームページを見たところでは全然確認できないです。小規模保育事業の後の選択肢としてどういうものがあるか、確実に入れているということの情報が必要かなと思います。</p> <p>それと、ここに少人数できめ細やかな支援ができるとありますけれども、もう利用者も随分いると思います。今利用している人ではなくて、例えば就学前に小規模を利用して、その後幼稚園を利用して小学校に上がったくらいの人たちに、実際どうだったのか、最初から保育所に入れたほうがよかったと思うかどうかとか、今小規模を利用したことはどうだったのか、やっぱり認可に入ったほうがよかったと思うかどうか、その辺の意識調査みたいなのをさせていただいて伝えるということが、これから選ぼうと思う方にはすごく効果的なのではないかと思いました。</p> <p>ありがとうございます。連携先として、3歳からの転園をどうするかということが見えづらいというところは、やはり私どもとしても少し課題となっております。そこをどうやってうまく伝えていくかというところは、すぐ出せるかどうかは分かりませんが、情報なりをお知らせさせていただきたいと思っております。</p> <p>あと、小規模の事業者さんにもお話を聞くのですが、来ていただければ絶対いいところというのを分かっている方もかなり多くいらっしゃると思います。そういうところは、そもそも小規模保育とは何かというところが見えないとか、預け先という認可保育所だけというようなイメージも持っている方もいらっしゃるの、そういう点で情報発信の仕方を少し工夫していかないといけないというところは、私どもの方でも議論していますので、いただいた御意見を基に対策については進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>あともう一つあります。連携施設で必ず移行先を確保できていると思うのですが、やっぱり保護者の中では自分で選びたいという意見もすごくあるわけですね。もう決められたところに、小規模のここへ入ったらその先が決まってしまうのではなくて、また新たに3歳からは自分で選びたいといったときに、選べるということも伝えることが大事だと思います。</p> <p>いろいろとありがとうございます。これが原因かは分からないので</p>
事務局		
尾木委員		
大庭委員		

すけれども、港北区と中区で非常に大きい問題が今起こっています。要は、横浜市は0歳児が要らないという言い方を区の方がされるのですね。そういう電話を受けた園長先生はもう本当にびっくりするわけです。去年に引き続き、また赤ちゃんに対してそういうような感覚で待機児童対策をやられているのかな、と感じて、ちょっとがっかりする。ぜひそういった発言がないように、まずはお願いしたいと思います。

それで、今尾木先生が言われたように、やっぱり足りていないのは10月1日ぐらいのデータがないのです。常に4月1日。だから、1歳児が足りない、0歳児が余っているということで、中区の係長からもそういう言い方をされたのです。要は0歳児を減らせ、定員外は取るなど、言うわけです。

定員割れは確かに港北区にしろ、横浜市はどこもあるのですが、では年齢別に分けて、10月1日の時点でどのぐらい定員割れしているのか。調べましたら、3、4、5歳児はやっぱりひどい状態です。これが教育無償化で変わってしまったのか、そこまでまだ分析してないですけれども。0、1、2歳児を調べましたら、港北区においては64人、2歳児が定員割れ、それから1歳児においては5人、0歳児においては定員割れが2人しかいないのですよ。ということは、10月1日で、0歳児は4月から9月まで埋まっているのですよ。また中区を調べたら、2歳児は18人、1歳児の定員割れは何と42人です。では、0歳児は何人かといったら中区は1人だけ。ホームページに出ていますから、皆さんも御覧になっているはずですよ。

そういう現実をこのタスクフォースに組み込まないと、区がみんな間違っただけで0歳児をやめろということをお願いするのです。そのくらい、赤ちゃんというのは4月から9月で今のところ横浜市が用意した数を埋める状態です。だから、4月1日に幾ら0歳児が埋まらないからといって、こういう資料を基に0歳児を削れという発想は、私は一番ひどい解決策だと思います。なので、そこだけは絶対に誤解がないようにしていただきたい。本当に赤ちゃんというのはいつ生まれてくるかなんて我々は決められないですから。4月1日に入れるようにお母さんたちは本当にすごいプレッシャーで子づくりするわけですよ。でもそれはあんまりですよ。それに拍車をかけてはいけません。

少なくとも横浜市としては今の0歳児の数は確保しなければ、子育てに優しいまちにはならないですよ。だからこの部分を絶対この会議では、私は本当に声を大にして言います。港北区からも非常にいろいろな園長先生からお願いが入っています。もう今は幼児が定員割れしていますよね。それで0歳児が入っているのに削れということにな

	<p>事務局 大庭委員 事務局 大庭委員 事務局 大庭委員</p>	<p>ると、一体どうやって運営していったらいいのだろう。待機児童対策として0歳児をいっぱい増やして、ようやくそれで今回っているのに、ここへ来て定員外を絶対取るなという言い方をしていたら保育園の現場はもう疲弊しちゃいますよね。それが現場の声です。だから、そこだけは絶対間違いないように市長に言っていただきたい。あなたがもしこれをやるのであれば、10月1日の時点のタスクフォースの分析もやるべきなのですよ。それで初めて動向が分かるわけです。では、今0歳児が何人待っているか。すごい数ですよ。港北だと、0歳児は1420人待っていますよね。これが延べですから、この資料だと大体平均6.4園を皆さん書くという結果ですね。</p> <p>ゼロ歳児は平均で2.8園です。押しなべていくと4.4園なのですが。それは保留児童の話ですよ。</p> <p>保留児童です。</p> <p>新規入所は6.4園ですよ。</p> <p>はい。</p> <p>そうすると、延べで1,420人でも、実際221人の人、1,420割る6.4で221人の人がどこかに入れたのです。0ですよ。そこで0歳児を削るということは、これは保育園としては園の自殺行為ですよ。かつ、それを待っていらっしゃる保護者にとって、保留狙いかもしれないですけれども、それでも本気で入りたい人がいっぱいいるわけです。なので、そういったことを間違ってもやらないようにしていただきたいのと、区に必ず言っていただきたい。そこだけは今日は本当にしっかりとお伝えしておきたいです。お願いいたします。</p> <p>事務局</p> <p>ありがとうございます。前回の第3期の見直しのところでも大庭会長が御指摘をいただいていたとおりで、私どもとしても、特に0歳児は年度途中から入られる方が多いということは事実としてその認識は持っております。一方で、4月1日で見ると1歳児の方がすごく待ちが多い。その方たちはやはり園が多いところがありますので、0歳の方が途中から入るといったところの事実もありますけれども、一方で1歳児の方をどうやって本当に入れていくかということが1つ課題だと思います。</p> <p>大庭会長もよく、私どもがお叱りを受けるのは、作り過ぎてどうなるのだという話もありますので、そういう意味では、既存の施設でどう定員構成のバランスを取っていくかというところがあります。私どもも、極端な話、0歳を半分にしようとか、地域によって何歳から預けたいというところの差はありますので、地域とか園の状況によって御相談をさせていただいています。場合によってはもう本当にずっと入らないところがあるとか、市外で入ってしまっている人がいるよう</p>
--	---	--

		<p>な状況はやはり避けていかないといけないというところで、定員のところ、0歳を削減という言い方が少し強いのかなというところはあるかもしれませんが。ただ、0歳児と1歳児のところのバランス、1歳児から預けたいというところのバランスをどう取っていくかというところで少し定員の変更のお願いをしているというところは、大庭会長の言っているところも踏まえながら進めていきたいというふうには考えてございます。</p> <p>ただ一方で、私どもも申請のピークが見込まれている中で、作り過ぎは本当にできるだけ避けていきたいというところがありますので、ぜひ、場合によっては団体の皆様の会合等々で状況も説明していただきながら、お互いの認識合わせをさせていただければというふうに考えてございます。</p> <p>もう一つお願いがあるのですけれども、1歳児、2歳児の枠を広げるというのは我々だって本当に協力します。ただ、0歳児が犠牲になることは絶対ないようにしていただきたいということです。それと、やっぱり幼児の空きがありますから、昔やられていた年度限定の1歳児、2歳児保育をもう少し皆様に知っていただいてやっていく。そこが大事ですけれども、ただ1つ、保育対策課がこの2、3年やはりもう少しやっていただきたいのは保育士確保です。取り合いということはありませんが、やっぱり宣伝すれば絶対来るんですから、もっとそこに予算を入れてほしいです。でも、今の予算では無理です。</p> <p>我々はみんなで会費を集めて何とか業者とやっていますけれども、これにだって限界があります。もう少し保育士確保を真剣にやっていただきたいのと、やっぱり学校に対して、学校も入学希望者が落ちているわけですから、そこと一緒になってもう少し連携をしてほしい。だから、やっぱり市がもう少し音頭を取って、みんなで保育士確保にももう少し予算と時間を使っていかなければちょっと無理がありますよね。1歳、2歳児を広げたところで先生は要るのですから。今2点、0歳児を犠牲にしないでいただきたい、それから保育士確保はもう少し力を入れていただきたいという、ちょっとおまけがつかましたけれども。</p> <p>まず保育士確保につきましては、採用と定着ということで、定着という意味では、宿舍借り上げ事業では相当な金額を使って定着ということについてはやらせていただいていると思います。正直億単位のお金をつぎ込んでいますので、そういった意味では施策のほうはまず一定レベルはさせていただいていると思います。</p> <p>あと、保育士確保の例えば面接会ですとか相談会みたいなところで言うと、これは私の感想ですけれども、やはり民間さんも、ある意味</p>
	大庭委員	
	事務局	

		<p>転職というような形で相当PRをされていて、ウェブとかの使い方がやっぱり上手だなという感じは正直受けています。そういった中でも、我々としては社会福祉協議会と共働しながらやっているというところもありますので、採用についてもしっかりとやっていきたいと思えます。予算については確保に努めてまいりたいと思えます。</p> <p>あと、養成校との連携につきましても、やはりそれは課題というふうに思っております。これから子どもたち、要は保育士さんになる子どもたちもやっぱり減ってきてしまうのではないかと、という危機感を持っていますので、そういう意味では、例えば中学生の方とか、要はこれから保育士さんを目指す人に、アプローチしていくことも必要ですし、その方たちが養成校に入ってもらって卒業して、ぜひ横浜で働いていただくと、こんな流れができればいいなとイメージはしておりますので、そういったところで養成校へのアプローチも課題と捉えておりますので、進めていく所存でございます。</p> <p>本当に莫大な予算を割いているというのはよく分かるのですけれども、やっぱり予算の割き方が、市は直接宣伝を打てないではないですか。どうしたって民間とか団体に予算を配分して、その民間団体が宣伝を打っていくといった流れになるわけです。だから、住宅の件に関して、これは、本当は国の政策でもあるし、そこでいち早く取り入れていただいた横浜市に対しては本当に感謝しているのです。ただ、それだけではもう本当に足りないのです。保育士が足りないから辞めていく、みんな辛くなって辞めていく。この負のループだけは今どこかで抑えておかないといけない。ここは本当にお願いしたいです。我々も一生懸命ああいうイベントはやりますので、ぜひ予算を割いていただきたいと。</p> <p>資料の取りまとめをありがとうございます。幼稚園としても、今、大庭先生もおっしゃったように、保育士、幼稚園教諭、保育教諭の確保というのはとても大きな課題になっています。学生にしてみても、幼稚園にしようか、保育園にしようか、認定こども園にしようかとかという選択を迷っている学生には、一緒にやってみるといのもありなのかなとは協会の中でも話は出ています。その辺ももし皆さんでやりましようとなれば1つ注目を集めるところにもつながるのかなとは思っています。</p> <p>資料の3について、きょうだい児の同時申請なのか、既に入っている子との割合とかもあるとは思いますが、きょうだいに在園児がいて、下の子があふれた場合、例えば、3、4、5のきょうだいの子がいた場合、もう定員いっぱいだけど、受け入れてはどうかみたいなお話は毎回されているものなのですか。</p>
	大庭委員	
	清水委員	

事務局	<p>場合によっては定員外でお願いするという事はあると思います。ただ、詳しく御説明できなくて申し訳なかったのですが、A3の資料の3の「きょうだい在園または同時申請」の一番下に、「令和3年4月時点のきょうだいでの利用者の1割は、きょうだい同士で競合したため、同一の園を利用できていない状況」と書いてありますが、裏を返すと9割の方は同じ園に入れています。1割の入れた方は別々の園に行っている。さらに保留児童の方がいるような状況で、実は端的に言うと、きょうだい児の方はランクが高くなるので、きょうだい児の枠同士の戦いになってしまっているというところが正直あります。</p> <p>定員外で受け入れていただければ実は救えるというところがあります。しかし、中にはやっぱりどうしても人気園で固まってしまっていると、お1人取っていただいて助かる場所はありますけれども、例えば2人目、3人目のきょうだいの方が入れなかったみたいなどは正直あるかと思えます。定員外でも入所になりますので、ぜひ御協力をいただければと思います。</p>
清水委員	<p>園の事情もあると思いますし、それぞれ保育者の確保という話では無理ですというのもあり得ると思います。やっぱり別の園に行くのは保護者も子どももとても大変だし、園としても、本当は行事、運動会とかも配慮してあげたいけれども、その子のためだけにするのは迷いはどうしても出るので、できるだけきょうだい同じ園に通えるのであれば、相談いただくのもいいのかなというのをちょっと思いました。</p> <p>それと、先ほどの大庭先生のお話ともかぶるところがあるのですが、小規模がポイントではまだ必要だというお話はごもっともだなというのが分かりやすい資料でいいと思うのですが、いずれは子どもが減っていく。政令市の幼稚園の団体の会議が先週あったのですが、そこでも、ほかの市では明らかに子どもが減って行って、19人の小規模で10人しか入園せず、先生の雇用を継続するにはずっと赤字が続いていますみたいな話がありました。また、近隣の幼稚園も子どもが減ってきているというのがかなり怖い、不安だというお話もあったので、その辺も一緒に検討しながらやっていけると何かいい解決策を見つけれたらいいかなとは思っています。</p> <p>もう1点は、こういうタスクフォースみたいなのでばんと出すのは難しいとは思いますが、僕たちは在園中しか子どものことを見られないのです。小学校へ行ったら、小学校の先生がどこまでケアするかというのは、また自立という意味でも変わっていくのですね。そう思うと、何か偉そうなことを言いますが、ある意味保護者が親とし</p>

		<p>て育っていくみたいなのもしっかりやっついていかないと、親になり切れていないまま幼稚園を通過していってしまうと、例えば、オムツを取るのを幼稚園、保育園、認定こども園に任せているだけになってしまうと、親としての喜びも感じられない。そのまま子どもとの関係も希薄になっていくというのがその子の本当の幸せなのかなというのを考えると、やっぱり親が親として育っていく環境をつくっていききたいと思っています。</p> <p>もし園で歩いても、「お母さん、歩いたよ」と言わないそうです。「もうちょっとで歩きそうだよ」と言ってお母さんに返して、「先生、家である後歩いたよ」という環境をつくっている。それは僕はすごい素敵だなと思っていて、「親のあなただからこの子は歩く、第一歩を踏み出したのだね」という、ちょっとずるいかもしれないですけども、そういうのが、あなたたちも保護者として大切なかけがえのない存在なのです、というのがメッセージとして載ると僕らもうれしいなと思っています。</p> <p>2つ目の御質問をいただきたいいわゆる定員割れのところの話ですが、横浜市でも、何回も御説明したとおりの例えば港北区の日吉とか、戸塚区の戸塚駅辺りはマンション開発で需要がいまだ多い一方で、やっぱりニーズが下がっているところがあります。そういう点では、石井部会長からも何回も御質問をいただいていますけれども、国のほうでも少し保育所の在り方みたいなところを検討している中で、私たちとしてもどうしていくかというところは検討していかないとイケないかなというところで、少し議論は行い始めているところではございます。まだ具体的に何かというところはないですが、少なくともピークアウトが大分横浜市のほうも見えつつある中で、そういうところの議論も少し進めていきたいと考えているところでございます。</p>
事務局	事務局	<p>障害児・医療的ケア児のところ、障害者のほうの種別とかは分かっていますか。</p>
森委員	森委員	<p>いろいろ種別はあるのですが、すみませんがそこまで詳しく分からないというところがあります。いわゆる医療機関で診断が出るとか、事前調整を行った方を今回抽出しているというような状況になります。</p>
事務局	事務局	<p>ダウンとか染色体異常とかだと生まれたときに分かるのではっきり出ると思うのですが、言わないでとか、子どもは違うと思って入っている子とかの割合も本当は分かればいいのかとちょっと思ったものですから、もしこの時点で分かっているのがあればと思いました。</p>
森委員	森委員	<p>そういう点では、逆に言うと区役所が把握している方の人数になるので、この部会の中でも議論があったように、後からとか、極端な</p>
事務局	事務局	<p>そういう点では、逆に言うと区役所が把握している方の人数になるので、この部会の中でも議論があったように、後からとか、極端な</p>



	<p>森委員 天明委員</p>	<p>話、隠してというようなところまでは実はこの数字には反映されていないという形になります。</p> <p>分かりました。すみません、ありがとうございます。</p> <p>貴重な資料をいただいてありがとうございます。よくまとめていただいたし、一時、横浜市が待機児童ゼロという目標を達成したときの幻の意味が分かるというか、これで通じるというような感じもちょっと理解できるので、やっぱりこういうデータがあって、それを市民に伝えられるというのが大きなところかなという気もしました。本当に行政だけが頑張るのではなくて、市民のほうも賢くやれたらいいよなという感じがしました。</p> <p>尾木先生が言ってくださった、小規模の卒園後どうするということころはかなり関心があるところだと思います。それは保護者だけではなくて、祖父母の世代がそこを後押しできるかどうか、認可でなければ駄目よという世代の価値観で娘たちにそれを押しつけてしまうという感じもあるかと思うので、アプローチの方法は少し幅を広げてしていただいたほうがいいかなという気がしました。</p> <p>あと、清水先生がおっしゃったように区が各園と交渉しているところについてもこういうデータが出ると、個別対応が積極的にできるのかなという気がします。本当にきょうだい児を別々の園に預けるというのはかなり大変なことだと思うし、市のほうのそこで競合しているというのもすごく苦しい感じがするので、そういうデータがあるならば、いろいろ調整の仕方もあるかと思いました。</p> <p>あと、保護者が育つという面において、こんなに配慮してくださっているのだと。だから、しっかり育ったよというところをうまく表現できるところがいろんなところであるといいかなというのは、いろいろ発信する場があるといいかなという気がします。課題の多い子を育てるという、社会も頑張っているよというのが見せられるといいかなという気は、その子が駄目なわけではないので、社会が頑張るよというのを伝えたいなという感じはしました。すみません、ありがとうございます。</p>
	<p>大庭委員</p>	<p>先ほど森委員がおっしゃった障害のことですけれども、これは来年から福祉の付加で保育事業と療育を並列的に並べて展開していくという、国の方針だと思うのですけれども、それをかみ砕いて、横浜市の中でもいろいろ展開されると思いますが、計画的に我々が知るというのは、こういった事業計画はまだまだ先ですよ。</p>
	<p>事務局</p>	<p>国のほうでも、幾つかある検討の一つとしてそういったことが話されているということは聞いているのですが、具体的な話の中身までまだ多分いっていないのではないかと思います。また見えてきたら、横</p>

		<p>浜市でこういった対応をしていきますということがあれば御報告できることはしていきたいと思えます。</p>
	大庭委員	<p>我々も保育園の園長先生から本当に多くこの問題があるときいています。保育事業と療育をしっかりとやっていくためには時には分離というものも必要で、そういった体制を整えている社会福祉の事業に対しては何かしらの弾力的な運用を認めるといった項目があったので、ぜひそのところをこういった場で具体的に市のほうからお示しいただいて、検討させていただければと思いますので、お願いいたします。</p>
	大澤委員	<p>先ほど定員構成のバランスの柔軟性ということがこれから必要になってくるというようなお話で、確かにそうだなというふうに思っております。そのときに、やはり定員構成のバランスを柔軟にすると、今度は子どもの育つ環境が大切になってくると思っています。定員構成のバランスを柔軟にしたときに、では保育の質を落とさないためには何が必要なのかというところも踏まえながら、そこにも、人を多くするだけではなく、バランスを整えるだけではなく、環境についても補助をいただけるとかというような質に関しても考えを出して、そして質の保障もしていただければなと思っています。</p>
	事務局	<p>ありがとうございます。基本的に環境という点で、人員の確保というところとハード的な部分の2つがあると思えます。ハード的な部分に関しては、例えば定員増をするときには実は改修費補助みたいなのもやらせていただいているので、そういうところで少し工夫が、こういう形でもし環境が変わるのであれば、私どもも整備のお金として出させていただいているというところがあると思えます。あと人員のところは、どちらかという基準に沿ってお出ししているところがあるので、そこの中でやりくりしていただく形なのかなとは考えております。</p>
	大澤委員	<p>いろんな園を見に行かせていただくことがあって、満3歳が園に入ってきたことによって、今までいた3歳児が1クラスに積み込まれている様子が幼稚園やいろいろなところで見られるので、そういうことにならないようにという視点も持っていただきたいなと思いました。</p>
	石井部会長	<p>ありがとうございます。他によろしいでしょうか。また後でも、その他のところで最後に言っていただいても構いません。</p>
	事務局	<p>これは報告事項なので、いろいろ出た意見をおまとめいただき。いただいた御意見を参考にまた進めさせていただければと思います。</p>
	石井部会長	<p>よろしく願いいたします。</p>